

## 第43回山形市農政審議会議事録

- 1 開催日時 令和8年2月24日（火）15時00分～16時30分
- 2 場所 山形農協本店 2階 大会議室
- 3 出席者
  - (1) 審議会委員  
藤科 智海委員、鈴木 雅史委員、鈴木 淳子委員、星野 みち子委員、  
二ノ戸 長作委員、山田 彰一委員、藤井 弘志委員、鎌水 信也委員、  
鈴木 淳委員、大山 敏弘委員、栗原 秀行委員、横山 佳子委員、  
中村 義助委員、中野 信吾委員、高橋 徳郎委員、石山 久悦委員
  - (2) 幹事  
農林部長、健康医療部長、福祉推進部長、商工観光部長、  
農業委員会事務局長、健康増進課長、障がい福祉課長、  
ブランド戦略課長、観光戦略課長、インバウンド推進室長、  
まちづくり政策課長、農業委員会事務局次長、農村整備課長、  
森林整備課長、地方卸売市場管理事務所長、農政課長
  - (3) 事務局  
農政課長補佐、農政企画係長、営農改善係長、農産係長、  
就農・経営支援係長、6次産業推進係長、農政企画係員（3名）、  
農村整備課計画指導係長、農業委員会事務局農地係長、  
（株）地域計画建築研究所（1名）
- 4 傍聴者 無し
- 5 議事  
議第1号 第7次山形市農業振興基本計画素案について
  - (1) 第7次山形市農業振興基本計画の策定について（資料1）
  - (2) 第7次山形市農業振興基本計画素案（概要版）（資料2）
  - (3) 計画策定の経過及び今後のスケジュールについて（資料3）
- 6 内容
  - (1) 開会
  - (2) 議事録署名委員の指名
    - 1号委員 星野 みち子委員
    - 2号委員 中村 義助委員

- (3) 議事 議第1号 第7次山形市農業振興基本計画素案について
- 1) 第7次山形市農業振興基本計画の策定について
  - 2) 第7次山形市農業振興基本計画素案（概要版）

議	長	1) 第7次山形市農業振興基本計画の策定について及び 2) 第7次山形市農業振興基本計画素案（概要版）について、事務局より説明願います。	
事	務	局	（議第1号「1）第7次山形市農業振興基本計画の策定について」及び「2）第7次山形市農業振興基本計画素案（概要版）」説明）
議	長	ただ今の説明に対して、皆様からご意見・ご質問等ございませんか。	
委	員	資料2の2頁「3. 山形市農業を取りまく動向」の中で基幹的農業従事者数が2050年には623人になるとあるが、非常にショッキングな数字。実際に担い手が減っていく中でこのような数字になっていくのかと思うが、その中でやはりスマート農業が重要になってくると思う。ただ、スマート農業の中でも機械の方はどんどん進化してスマート農業に近づいているが、圃場の区画が全然追いついていないということで、ぜひ国の施策等を使った中で、山形市が音頭をとりながら大区画化を進めていただきたいと思うところです。機械が今大型化して非常に性能が良くなってきていて、実際山形市の田んぼ3反歩1枚というのが大きい区画なのですが、耕うんにしても稲刈りにしても、1時間もかからないで終わってしまいます。やはりもっと大きな区画にならないと使いづらい。山形県内においても、庄内、最上、置賜あたりでかなり試験的に進んでいるようすけども、山形市は全然進んでいないようですので、その辺含めて検討していかなければならないと思います。	
事	務	局	スマート農業につきましては、今後国の補助等も使いながら機器等の整備を進めていく考えです。大区画化を目指すという部分については、土地改良区や農業委員会と連携をしながら進めていかなければならないと考えています。ただ、村山地方は庄内地方や最上地方と比べて大区画化が大分遅れていると感じておりますので、今後積極的に進めていきたいと考えています。併せまして、そこの進めていく

- 部分については、今後基本計画あるいは施策の中でしっかりと謳って、施策として考えていきたいと思います。
- 議 長 資料2の3頁「稼ぐ」の一つ目に挙げている項目ですので、ぜひ実現に向けて進めていく、ということかと思えます。
- 委 員 資料2の2頁にそれぞれの目指す姿が5つあって、3頁に具体的なイメージが記載されていますが、例えば「つなぐ」の説明について、山形の農業の課題を踏まえてのことだと思うのですが、読んでるとどちらかというところ「守る」とか「維持する」というような印象が強くなるような感じがします。例えば山形市農業の魅力をもっと高めるとか、少し積極的というか、攻めのような言葉もあった方が、バックキャストという高めの目標を据えてそれに向かって進めるという考え方にも合致していくのではないかなと思いました。
- 委 員 スマート農業について、先ほど大区画化すればどうって話もでしたが、結局は時間短縮にしかならないんですね。国がスマート農業を並べたものを見ると、時間短縮はなっているけど収量は上がってなくて収益性が上がっていない。例えば今乾田直播も節水型を見てきたのですが、コストは下がっているけども収量は200kgしかとれないとか、結局それもコストを考えたら全然もたないわけですよね。実はスマート農業はマネジメントなんです。マネジメントということは、人がかなり詳しく知っておいて評価をする。例えば早く時間が終わります、だったらその分どうしたら収益が上がるかを考えると、マネジメントに行かないと、結局スマート農業を単に買うだけで終わっちゃうんです。ハードは簡単だけど収益性は上がらない。だから、山形市でスマート農業を展開するときは、人が主役だよということを前面に出していただきたい。あともう一つ言うと、気象条件からここ10年くらいのスパンで見ると、本当に増収ができる場所は北海道、青森、秋田、山形、長野くらいなんです。そういう意味では、山形市って山形県も含めてそういった将来展望があるので、やはり技術を一つ大事にしながら、技術があって初めてシステムが成り立つので、技術がある人たちを育てるということに重点を置いていただきたい。ハードも大事ですけど、やっぱりソフト、人に投資するっていう発想や視点を持っていただいた方が、スマート農業としては成功するんじゃないかなと思っ

		<p>てるので、ぜひスマート農業とか謡っているのであれば、そこに力を入れていただくとよろしいかなと思います。</p>
事務局		<p>例えば県の方で、なぜつや姫の収量が上がってブランド化になっているのかというと、県を始めとした普及員の方のご尽力かなと、技術の継承の部分が大事かなと思います。そういった部分をしっかりイメージしながら、人が主役になるような施策を今後考えていきたいと思っています。</p>
議長		<p>この目指す姿の中に入れられるかもしれないし、具体的な施策を考えるとときに反映させられるかもしれないという感じですかね。</p>
事務局		<p>はい。</p>
委員		<p>資料2の2頁の基本理念と目指す姿について、とても素晴らしいと思いました。様々な問題点がありますが、計画に期待します。</p>
委員		<p>食育についてですが、本当の食育っていうのは、日本の食料自給率がこんなに低いのに将来食べられるかどうかってことを教えることなのかなと思います。日本の食料をどうするとか、環境をどうするとか、お米に対してどうするとかということも発信してほしいなと思います。食育も全体の中ですごく大事で、小さい頃から山形の米、野菜、果物を食べることは大事だよということと、みんなが守らなきゃいけないよということを知ってもらうことがすごく大事なので、ぜひ食育についてもお考えいただければと思います。</p>
委員		<p>地元のものの魅力とか、ご苦労とかを食育の中で伝えていただきたいなと思います。私たちの食卓を農家の方が支えてくださっているということが、なんとなく人ごとのように感じている方がいますので、もう少し仕組みを強化していただければ、もう少し私達にも伝わってくるのかなと思います。</p>
事務局		<p>資料2の3頁「知る・食べる」の中に「大人も主体的に食育を学び」と入れさせていただいて、食育の大事さを描きながら今後基本計画あるいは施策の中に入れていく考えでございます。</p>

- 委員 私は小学生と一緒に25年間、田んぼの授業をしています。その中で感じるのは、子供たちは生き生きと田んぼに入って稲刈りをして、ごはんを食べて、喜んで、私たちの話を聞くんですけども、先生方の反応が非常に悪い。日々授業の中で接しているのは、学校の先生です。その食の対するレベルを上げてもらわないと、子供たちへの食育は上手いかないのではないかと思うので、先生方の食に対する考え方をレベルアップしていただきたい。
- 委員 農家人口が減ってしまうということですけども、移住していただくということについてはどうお考えですか。大江町では、すもも栽培を中心に移住者を集めているらしく、町でも中古住宅を整備したりしながらそこに居住してもらうということを進めているようです。山形市の方でも中山間地域を中心に、空き家などをリノベーションしながら対策していただけたらと思います。
- 議長 目指す姿の中に「移住」というワードは入っていませんが、どうお考えですか。
- 事務局 目指す姿の中に入れ込むことを考えたいと思います。移住対策としては、企画調整課と一緒にオーダーメイド型移住ツアーを実施したり、中山間地域については地域おこし協力隊を募集したり、空き家の発信等を行っています。併せまして、新たな施策の方も検討していきたいと思います。
- 委員 昨今から米が無いということで大変騒いでいるという中で、米が1俵三万円。それが3、4年前だと1俵1万2千円ぐらいだったんですよね。で、次の年にはまた2千円くらい下がるなんていう状況の中で、本当に米を作っていけるんだろうかというような議論があったかと思います。特に去年は、安い米を作るためにという話が出て、農水省の方で乾田直播をする農業者に助成をするという項目がありましたが、本当にそれで持続可能な運用ができるのかと私は思っているんです。田植えもしない、水も入れないで作っていけるのかなと危惧しているところです。もう一方で、山形県がナショナルジオグラフィックで「2026年に行くべき世界の旅行先25選」に選ばれたり、山形市がジャパントائمズで紹介されたりということで、今年は海外からの観光客が多く訪れるのかなと、大変なチャンスが起きているのかなと思います。そこで、観光客から山形の

農産物を買っていただくだけではなく、山形に来たらこういった体験ができるんだという取組もしていければ、また山形に行ってみたいとつながるのではないかと思います。いわゆる農産物を買ってもらうだけではなく、山形だからこういう体験ができるんだというものを考えて、この一年間取り組んでいただければ、今年山形に訪れた観光客がまた山形に来ていただけるのかなと思っています。

事務局 乾田直播については、どうしても収量が落ちると言われているところではありますが、県が開発した技術をしっかりと活かして収量を上げることが基本かなと思っています。実際山形市にも乾田直播をしていらっしゃる方もいますが、現実的に収量が下がっているとお聞きしていますので、そこはやはり一つの手段なのかなと。全部が全部区画の大型化に加えて乾田直播を広めていくのはちょっと違うのかなと事務局としても考えています。あと併せまして農産物の今後の販路拡大についてですが、買ってもらうだけでなく、資料2の3頁「触れる・楽しむ」にも「農業体験等を通じて」と記載していますが、山形に来て農業体験をしていただいて、山形の魅力発信をしていくという部分をとらえながらの施策を考えていきたいと思っています。

委員 インバウンドに関しては、例えば蔵王では今ウィンターシーズンということで、バスもタクシーも乗り切れないほどとなっていますが、実際インバウンドの方が来た時に、蔵王で山形のもものが食べられるところがあるのかというと、温泉街は17時になれば真っ暗になって、何店舗かやっているようなお店に雪の中行列を作っているんですね。ですから、インバウンドで来る方々向けに、山形の美味しいものを食べていただく機会を増やしていくってということが、山形のPRにつながっていく、ひいてはSNSで発信されまた山形に来る。そうやって山形の食材が使われることによって生産者の方々も自信を持って作ろうか、というところにつながっていくのではないのかなと感じます。実際に今、多くの外国の方が行っている飲食店は、ほぼほぼ山形の食材を使っていないチェーン店ばかり。できればもう少し、例えば埼玉の深谷ネギが美味しいからネギを食べに行くとか目的を持って旅行してもらおうというような、ラーメンが日本一であれば山形の食材を使いこんでオール山形で売り出すとか、何かの形で山形の食材は美味しいんだということを全国の方に知っていただいて、遊びに来て、そ

のまま移住したりとか、農家の方々が作ることは素晴らしいんだなと思っていただけたりとか、そういう PR をもう少し上手くしていただければと思います。

委員 資料2の2頁目指す姿の「稼ぐ」について、山形県の農業につきましては尾花沢のスイカとか、置賜地区のデラとか、さくらんぼ、ラ・フランスなどが各地域の消費者より脚光を浴びています。ただ、我々が販売をして感じることは、いかに安定した生産者、そして生産が安定した、収量ができるような対策というものが一つ、今後大事なことになってくるのではないかなと思っています。やはりさくらんぼ自身も、6、7年前と違ってここ3年ぐらいは非常に雨が少なくて、難しい品目になっているような状況です。山形県のさくらんぼは全国的にも知れ渡っていて、さくらんぼの時期になると集荷や注文が非常に多くなるのですが、先ほど話したように、生産量が安定しないというのが我々販売からすると一つの要因となっています。しっかり収穫するには、それなりの準備といえますか、そういう気候条件に耐えられるものを作ることが先決の問題ではないかと思っています。私も農業をしていて、さくらんぼを作っている同級生もいますが、稼いでいる者についてはしっかり井戸を掘ったりそれなりの準備の体系を作っています。そのため、山形県のさくらんぼ、ぶどうにしてもスイカにしてもやはりその体系をつくるための経費といえますか、そういうものをやはり国とか県とかが官民一体となったような施策をすることが大事になってくるんじゃないかと思っています。

事務局 インバウンド等の観光について、資料2の3頁「知る・食べる」に記載している「山形市の食の魅力発信等が観光客や交流人口の増加につながり、市外や海外との交流が広がっています」という目指す姿を描きながら、今委員がおっしゃいました施策の方も考えていきたいと思っています。また安定した生産・販売につきましては、さくらんぼについては今年トレーニングファームの整備をしていますが、その中で気候変動を踏まえた高温渇水対策等も実施しなければならぬということで、資料2の3頁「つなぐ」の中の「トレーニングファームや園芸団地で栽培技術を学んだ新規就農者が園地を引継ぎ」とか、「稼ぐ」の中の「持続可能な農業経営が続けられるよう、高温・渇水に適した品種転換や栽培技術・設備を導入」するなどの将来像を描いてい

ます。これらの将来像を描きながら、具体的な施策について基本計画の中で定めていきたいと考えています。

委員 使われていない農地が増えてきている、それは当然農業者がいなくなる。特に露地の畑作農家が減っている。基幹的な農業従事者数が減ってるっていうマイナス要因がありますけども、この大部分がもしかしたら畑作農家が減っているんじゃないかなという気がします。いろんな行政施策があつて、稼ごうと思う人がいれば行政施策を受けて経営努力をしようとすると思うのですが、どうもそうじゃない、もう辞めた方が良くと言う農家が逆に増えてきている。だからどんなに行政施策をやっても、なかなかプラスに向いてこない感じがします。じゃあどうすればいいのかというと、経営安定を図るための要素は何か、農家が農業を続けていこうという意味を継続させるものは何か、それは、安定した労働力と生産原価のプラスを補えるだけの販売価格にかかっているような気がします。いろいろな行政施策が散りばめられているのはよろしいんですけども、発展計画自体が、農家と共に達成しようというものが中に入っていないと、魂が入っていないような気がします。だから、常日頃から行政の皆様方は農家の方といろいろお話し合いをされているんだろうと思いますけども、自分なら農業をこれからどう維持できるか、そのあたりのことをどこかに触れていただければ非常にありがたいと思います。それから食育について、私どもの畑では数年前まで仙台から大型バス2台で来て、夏に種をまいて秋に収穫し、収穫したものを私どもの畑で料理して食べて、余ったものは持ち帰る、そんなことをしていた中学校がありました。約10年間続けていましたが、そのあとはどうしたのかというと、自分の中学校で畑を作りましたと。農作業はこんなに大変なのか、作ったものはこんなにおいしいのか、農作物に対する価値について、子供たちも非常に勉強になりましたとのことでした。ぜひ、教育の場でも食育に取り組んでいただけるようなアプローチをしていただきたいと思います。

事務局 持続的な農業を目指すためには、今回描いた5つの具体的なイメージを達成していくことが、施策に反映して実施していくことが必要かなと考えているところでございます。そういったことで、今いただいた意見をしっかりと施策に反映できるような部分を作り上げていきたいと考えてい

		るところでございます。食育の部分では、生徒から作ってもらって食すというのはとても大事な食育かなと考えておまして、今現在でも各地区の方に指導者として学校訪問をしていただいて、その中で食の大切さとか、あり方の部分の教育をさせていただいておりますので、今後継続していきたいと考えております。	
議	長	露地畑作について、山形は多分在来野菜がしっかりあったのが、稼げなくなったり高齢化が進んだりして辞めてしまっているというのもあるのかなと。確かに資料2の3頁「稼ぐ」の中だと「省力型・高収益型の経営」が全面的に出ているのかなと思うので、「まもる」になるのか分からないですけどそういった部分も大切なのかなと思います。	
委	員	食育の部分で、20年くらい前に学校給食での地元農産物の使用料率どのくらいなんだと聞いたら、確か3%ということだった。それは、全国学校給食会という組織が一括仕入れをするので地元の農産物は使わないんですというような答えだった。その後、学校給食で地元の農産物を使わなければならないだろうということから、今市の目標が25%で、26%になったので目標は達成していますというのが山形市行政の回答でした。私はもっともっと学校給食における地産地消農産物の使用量を増やすべきだと思っています。最低でも30%ぐらいは地元のものを使わなければならないということと、あと学校給食の質をもっと上げるべきだと思っています。そういう話をすると、給食費を上げないと対応できないんですという回答が返ってくるんですが、その部分は農林部の方で予算をつけて、学校給食で山形市内の子供たちに質の高い、そして地元の農産物を提供する、行政側の努力が必要なのかなと思います。あとは農業体験について、コロナになって、それまでやっていた田植えや稲刈り、あるいは農協青年部でやっていた中学校でのキャベツ作りとか、そういったものがなくなってしまって、なくなったままになっているところもあるのかなと思うので、ぜひそういったものを再開してもらえような学校側の取組も必要なのかなと思っています。	
事	務	局	学校給食における市産農産物の使用割合についてですが、多分過去に質問されたときは重量ベースでの数字を答えていたのかなと思います。令和3年度から、重量ベースから金額ベースに目標値を変えておまして、令和3年度には

69%の市産農産物の使用割合となっておりまして、第6次計画の中では69%を75%まで引き上げようというような目標を立てています。今現在その目標はまだ整理していませんが、そういった形で施策を進めています。給食の提供という部分については、当然予算の部分もございませうけども、この「知る・食べる」、「触れる・楽しむ」という大きな目標につながる施策として、何ができるかを考えていきたいです。

委員 資料2の3頁「つなぐ」について、我々も園芸振興ということでやっているわけですが、令和に入ってから凍霜害または高温障害ということで生産量が落ちている。それに加えて高齢化ということで、この中にある「ベテラン農家の園地や技術が途切れることなく」とありますが、具体的にどのようにしてベテラン農家の技術を承継していくのか、その辺が我々も一番課題としているところです。例えばベテラン農家の方々、これから離農する予定の方々と一緒に集めながら技術を継承していくとか、1対1ではなかなか園地が継承されなくて伐採されるというのが現状ですので、知恵を絞りながら我々もやっていきたいと思っておりますけども、行政の方ではその辺を力強く支援していただければと思います。

事務局 資料2の3頁「つなぐ」に「地域・市・関係機関等の適切な役割分担により」と記載していますが、今ご意見いただいたように、横の連携を大切にしながら技術継承を進めていきたいと思っております。

委員 消費者として、なるべく地産地消のものを使おうと思うのですが、値段的にすごく高い。買いに行ってみると、ほうれん草でも赤根ほうれん草は手が出ないほど高く、隣には他県の安いものが並んでいてなかなか買えないところ。先日雪下にんじんを出しているんだという人の話を聞いて直売所に行ったところ、意外と安く手に入れられて。そういった旬ものが安く買えるという情報があれば、山形市のおいしいものも私たちの手に入るのかなと思いました。

委員 我々直売所3つありますけども、その中でLINEをやっております、今登録者数が1万4千名ほどになっております。そのLINEの中で旬のものの情報発信をしておりますので、ぜひ直売所のLINE友達追加をしていただきたい。

委員	乾田直播という話がよく出るが、菌根菌を使ってるマイコス米の乾田直播の話だと思うんです。米を大きく作っている方はその乾田直播ではないんです。水を使わない乾田直播ではなくて、機械を使って苗を作る作業を省く乾田直播で、そっちの方は水を使っていて大規模区画化に適している。マイコス米の方は、水が入らない圃場もしくは畑だったところを田んぼにする方法で、その辺区別がつきづらいので、みんなが分かるように広げてほしいなということが一つです。あと先ほど食育の方で農業体験とあったんですが、実は小学校側の方から断られてできなかった、ということがありました。それが、授業日程が詰まってどうしてもできないということで。確かに授業は大事だと思います。でもやっぱり食育を考えていくなれば、何とかしてちよっとでも時間を空けてもらえれば助かったのかなと思ったところです。
事務局	乾田直播については、確かにマイコス米の方と別物ですので、そこはしっかり区別をした形で広げていきたいと考えています。学校での課外授業につきましては、なるべく学校関係のところとも連携させていただいて、できる限りの総合学習の時間を作っていただくよう働きかけを進めていきたいと思っています。

3) 計画策定の経過及び今後のスケジュールについて

議長	3) 計画策定の経過及び今後のスケジュールについて、事務局より説明願います。
事務局	(議第1号「3) 計画策定の経過及び今後のスケジュール」説明)
議長	ただ今の説明に対して、ご意見・ご質問等ございませんか。  —特になし—
議長	以上で本日の審議を終了しますので、事務局に返します。色々ご協力いただきましてありがとうございました。

(4) 閉会